

福生市教育委員会会議録

平成27年第7回定例会

- 1 開催年月日 平成27年7月24日（金）
- 2 開始時刻 午前10時00分
- 3 終了時刻 午前10時41分
- 4 場 所 第二棟4階 第1委員会室
- 5 出席委員 教 育 長 川 越 孝 洋
教育長職務代理者 渡 辺 浩 行
委 員 平 野 裕 子
委 員 徳 永 喜 昭
委 員 加 藤 孝 子
委 員 坂 本 和 良
- 6 欠席委員 なし
- 7 出席者氏名 参事兼教育指導課長 石 田 周
教育総務課長 町 田 和 子
教育支援課長 野 崎 昌 利
学校給食課長 村 野 和 彦
スポーツ推進課長 横 倉 成 昭
公民館長 高 橋 邦 彦
図書館長 柿 田 芳 久
主 幹 長 谷 川 智 也
主 幹 林 宣 之
指 導 主 事 森 保 亮
- 8 傍聴人 3名

午前10時00分 開会

教 育 長 それでは、ただいまから平成27年第7回福生市教育委員会定例会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

これより日程に入ります。

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

福生市教育委員会会議規則第19条の規定に基づき、加藤孝子委員、坂本和良委員の両名を署名委員として指名いたします。

次に、日程第2、教育長報告を行います。教育長報告を各担当部長より申し上げます。

本日、天野教育部長が欠席をしておりますので、教育総務課長より報告をいたします。

教育総務課長 それでは、学校教育を除く所管事務のうち、前回の教育委員会定例会以降の主な事項につきまして、私から報告をさせていただきます。

まず、福生市におきましては、6月26日、6月議会本会議の最終日になりますが、議会冒頭に平野委員より就任の御挨拶を行っていただきました。

また、7月4日、福生市表彰式が市民会館小ホールで開催され、自治功労1名、一般表彰15名の表彰が行われました。

次に、教育総務課でございますが、7月8日、都市教育長会が東京自治会館で開催され、教育長が出席しております。

次に、7月16日、都市教育長会研修会でございますが、東京自治会館で開催され、講師は東京都江戸東京博物館館長の竹内誠氏で、「今こそ日本の伝統文化を見直そう。オリンピック、パラリンピック教育を考える」と題しての講演でございました。この講演会には、平野委員、加藤委員に御出席をいただきました。

また、7月17日に、平成26年度教育委員会が所管する事務の点検及び評価に係る外部評価者会議第1回目の会議を外部評価者2人にお越しいただきまして開催し、委嘱状の交付と事業の取組状況を御説明いたしました。第2回目の会議は今後行い、質疑応答や御意見を伺う予定となっております。

次に、学校給食課でございますが、7月15日に学校給食センター運営審議会が開催され、今年度第1回目の審議会となっております。まず、委員への委嘱状及び任命書が交付されまして、そして役員を選出が行われまして、会長には第五小学校のPTA会長、高橋氏が、副会長には第六小学校

のPTA会長、神田氏が選任されました。議題は、平成26年度福生市学校給食会計収支決算及び監査報告についてと、平成26年度福生市中学校ミルク給食会計収支決算及び審査報告について、この2つの議題について審議がされました。

次に、生涯学習推進課でございますが、青少年海外派遣事業の関係となりますが、7月19日に激励会が開催され、市長、副市長のほか、市議会からは議長、総務文教委員長、教育委員会からは教育長、渡辺職務代理、徳永委員、加藤委員に御出席をいただきました。来賓の方からは激励の言葉をいただき、派遣生からは一人一人、今回の派遣に際しての抱負の言葉がありました。また、本年度は加藤市長も同行され、派遣生12名と天野部長初め随行者3名が昨日出発をいたしました。加藤市長は7月30日に帰国され、派遣生は8月5日に帰国の予定となっております。

次に、スポーツ推進課でございますが、7月12日に市営プールが開場となりまして、9月5日までが開場期間となります。

次に、公民館でございますが、7月11日と12日に本館まつりが開催をされました。その他記載のとおりの実施状況でございます。

以上でございます。

参事兼教育指導課長

それでは、私からは学校教育に関する所管事務の教育長報告を行います。今回は6点ございまして、お手元のA4、1枚の紙をごらんください。

1点目は、特別支援学級の宿泊行事が行われました。福生第二小学校くまがわ学級が7月2日から3日まで山梨県の清里に、同じ日程でございますが、福生第一中学校の8組が静岡県の御殿場に行っていました。天気が余りよくなかったのですが、様々な行事、例えばカレーライスづくり等、プログラムは全てできたということでございます。

2点目でございますが、7月2日木曜日に東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査が無事に行われました。全校で一斉に行われたという報告を受けています。

3点目は、1学期の終業式でございまして、7月17日金曜日でございますが、こちらは先週、中学校の終業式ということで、校長先生方が夕刻御報告にいらっしやいましたけれども、どの学校も大きな事故等もなく1学期を終えることができたということで、教育長に報告がありました。

4点目は、平成27年度福生市英語教育推進委員会の第2回目が、7月22日水曜日に行われました。これは英検の受験を目指しておりますので、そのための教材の扱い方を英検協会から係の方がいらしてレクチャーを

受けたり、3、4年生の教材をどのようにしていくかということが1つ課題になっているわけですが、例えばDVD等、今、委員が精力的に教材を検討しているところなのですけれども、そういった会議が行われました。林主幹が全小学校の英語、外国語活動の授業を回り終わったところなのですが、この10名のメンバーと校長先生お二人いるのですけれども、極めて機運が高まっているというか、熱心に取り組んでいただいているということで報告を受けております。

5点目は、校長研修会、つい昨日でございます。7月23日木曜日に、財団法人教育調査研究所の小島宏先生をお招きしまして、学校経営方針の具現化と会計マネジメントということで講演と演習を行いました。全校長出席でございます。

最後に初任者宿泊研修会ですが、8月19日水曜日から21日金曜日まで、八王子セミナーハウスに参ります。3市2町1村、そして東京都教育委員会と連携して、島嶼の初任者の方も参加して八王子セミナーハウスで行います。この3市というのは、青梅市とあきる野市と福生市でございます。

以上、6点、御報告いたします。

教 育 長

以上、報告が終わりました。

何か質問等ございましたら、お願いをいたします。

よろしいでしょうか。

特にないようでございますので、教育長報告を終わります。

次に、日程第3、報告第30号、平成27年度スプリングスクール実施報告についてを議題といたします。指導主事より内容の説明をお願いします。

指 導 主 事

それでは、日程第3、報告第30号、平成27年度スプリングスクール実施報告について報告いたします。

恐れ入ります。本日差しかえ資料、報告第30号資料をご覧ください。スプリングスクールの目的は、中学校入学時の時期を捉え、宿泊を伴う学習を通して、福生市立中学校の生徒に、自ら学び、自ら考える力の基礎となる望ましい学習習慣や生活習慣の基礎を身につけさせることと、宿泊を伴う学習を通して新1年生相互や新1年生と教員との人間関係を育み、中学校生活への早期適応を図るとともに、自他を大切にしたい望ましい集団生活を送る力を身につけさせるとしております。本年度は福生第一中学校の4月22日からの実施を皮切りに、3校とも高尾の森わくわくビレッジにおきまして2泊3日にて実施いたしました。委員の皆様におかれましても現地

まで足をお運びいただき、ご覧いただきました。ありがとうございました。

資料には、期間中に実施いたしました学習状況調査の結果をお示しております。本調査は、業者による全国調査を、本市の1年生全員に受験させました。国語と数学の2教科で実施いたしました。平均正答率は国語が61.9%、数学56.1%で、全国平均に比べて国語は5.2ポイント、数学は7.0ポイント下回る結果でございました。

各教科において最も大きい課題であると判断した問題をお示しております。国語の「「まさか」という言葉を使って主語と述語の整った文を書きなさい」という問題につきまして、注目していただきたいところは、正答率における全国の平均正答率との差もさることながら、本市の無回答率の高さでございます。実は昨年度も、同調査において「「到底」という言葉を使って主語と述語の整った文を書きなさい」という問題が出題されており、同じように無回答率が当時26.8%となっております。2年連続で同様な結果が見られていることから、本市の重要な課題として判断しております。改善を図るためには、国語の授業を中心に、他の授業におけるノート指導や作文指導の際にも意識して使わせる等の指導が重要になり、教務主任会等でも教員に周知してまいりたいと考えております。

数学につきましては、「ガソリン1リットル当たり7.5キロメートル走る車があります。この車は9分の4リットルで何キロ走りますか」という問題でございます。本問題の無回答率が27.2%と高く、さらに正答率と12ポイントの差があったという結果となりました。本問題は、解答を導く過程において、中学校の数学を学習していくのに重要なポイントであり、改善を図るためには、つまづいているところを正確に把握し、その部分の学び直しを行わせることが大切になります。

裏面をご覧ください。裏面は実施後のアンケート結果をお示ししました。全体的に生徒の肯定的な回答は昨年度よりも高く、自由記述欄からも、「時間を見ながら行動できたので中学校生活でも頑張れるようにしたいです。」や、「家に帰った後、家でも勉強が続けられるようになった。」などの意見が目立ちました。

なお、お手元の資料には記載しておりませんが、引率者、教職員からのアンケートは、肯定的な回答よりも改善を必要とする意見が多かった結果が目立ちました。具体的に申し上げますと、「バイキング形式の食事は指導がしづらい。」、「昼食等の集金を学校でやらなくて済むようにしてほしい。」、「2泊3日ではやらなければならないことがたくさんあり、無

理やり詰め込んでいるのが現状であると思う。」という実施内容や方法についての記載もあれば、「担当教員の負担が多過ぎる。」、「3日間で学習習慣や生活習慣は変わらない。」、「まずは学校生活を慣れさせたほうがよい。」等の事業そのものについて非を唱える回答もございました。

教育指導課といたしましては、本事業の趣旨を踏まえた上で、各学校の実態に合わせて有意義な教育活動になるよう柔軟に実施してほしい旨の説明を、校長会だけでなく、教員に対してもスプリングスクール実施協議会において説明しております。しかしながら、教員にとっては実施の意義よりも負担感が大きいというところが現状になっており、この点について改善を検討していかなければならないと判断しているところでございます。

以上で報告とさせていただきます。

- 教 育 長 内容説明は終わりました。質疑等ありましたら、お願いをいたします。
- 平 野 委 員 このスプリングスクールは、今年で何回目でしたでしょうか。
- 指 導 主 事 平成20年度からの実施になりますので、8回目です。
- 平 野 委 員 やはりいろいろな面で総合的に見直すという時期になっているのでしょうか。子どもたちにとっては肯定的な回答が挙げられていますけれども、御指導される先生方の負担が大きい、これまでもそういう話がありました。いろいろと御協力していただいて今まで実施してきたのですけれども、また教育委員会の中でも考えていく必要があるのかなと思います。
- 教 育 長 そうですね。細かいことを申し上げますと、学年を受け持つ教員によって、また、年度によって感想は違っていると思っております。前向きに積極的に捉えてやっている学年もありますし、転入者が多いときの学年構成の場合は、転入してきてすぐに移動教室ということになる場合がありますので、そういった意味での負担感等は多少あるだろうと思っております。ましてや意義や価値を理解する前に、教員が一緒にいかないといけない等の課題は確かにあるだろうと思っております。先ほど指導主事から報告ございましたように、実行委員会を立ち上げていますので、その中できちんと意見を出させて、やはり実りある主体的に前向きに取り組んでもらえるようなものにしていかなければならないと考えております。生徒の意識調査をご覧いただいたとおり、非常に肯定的で年々伸びているという答えがあります。そういった意味では生徒を軸に考えたときに意義や価値は高いものであると判断できるわけなのですが、先ほど申し上げたようなところをもう一回見直す時期には来ている、そういった意味での8年目なのかなという気はいたします。

それから、学習状況調査について、私、かなりこれに問題意識を持っておりまして、全国や、あるいは先ほど報告にありましたように、東京都の調査に比べて低い結果が出ています。これは小学校までの復習テストみたいなもので、ずっとやってきているわけなのですが、これに取り組む上での準備が足りないといえますか、この中にはやはり小学校の授業等のあり方等も関わるので、今後データを小学校にもフィードバックしながら、当然授業改善等に役立てていただかなければならないという認識を持っているところでございます。

ほかに何かございますでしょうか。

坂本委員 今教育長がおっしゃったようにこの学習状況調査の結果を見ますと、国語と算数の部分について、恐らくどこの学校でもこの問題は難しいと思いますね。ですから、これが極端にできないからということで、すぐに課題が大きいという気は余りしません。国語についての記述が整っていないということは、これは大人でも同じですから、やっぱり練習をしっかりとやらないとだめな場合が多いですね。問題が「まさか」という言葉の語彙力がついていないことによってできないのだったら、これはまた別の問題だと思えますので、誤答例があるのだったら、誤答例の割合みたいなものをもう少し細かく分析してもらえると、さらに課題はわかると思えます。

分数のほうは割合の問題なので、割合は小学校の5年生、6年生、高学年の中で時間をかけて指導してもらわないと、なかなか身につかないと思いますね。この割合の考え方がきちんとできていれば、高校に行って化学の時間でも何の問題もなく解けるようになるのですけれども、ここでつまづいている子はもう高校へ行ったら、全く化学は計算できず、どうしても化学はお手上げになってしまうという、いつまでもひっかかる問題になってくると思えます。これは小学校の先生に頑張っていたいただきたいと思えます。

あと、子どもの記述欄でいくといいことしか書いてないのですけれども、子どもからの何か変えてほしいというものはなかったのでしょうか。

教育長 森保指導主事、どうですか。

指導主事 子どもたちの自由記述欄を見ていく中で、ほぼ9割方肯定的な意見でございましたので、もしかするとあるかもしれません。もう一度資料を見直させていただきたいと思えます。

坂本委員 子どもたちからも変えてほしいというのがあるのだったら、それはやは

りよく見てあげたいなと思います。学校の先生方は、大変だというのは非常によくわかりますね。学年の初めですから、まだどのような、学年計画にしていくかというものを考えている最中に、ここに行かなければいけないということは、かなり負担感は大きいと思います。ただ、その負担感よりも、子どもたちがこれだけ肯定的に考えているようなメリットがあるわけですから、それを考えてもらえればいいと思います。ただ、負担感を少なくするには何かやり方があると思いますので、それは実行委員会のほうで工夫していただければと思います。この様な事業というのはやっぱり重要だと思うのですね。中1ギャップを解消するためにも、これは意義があると思いますので、継続する方向でぜひ工夫をしてもらいたいと思います。

教 育 長 坂本委員から専門的な重要な指摘もありましたけれども、特に教科学習状況調査につきましては、こういったことが福生だけにとどまらず全国的な傾向でもあるといったような、確かにそういう解答が低いという部分であろうかと思えます。特に算数につきましては、やはり割合、比のところはかなりつまづいているのは、全国的にも同じような結果が見られておりますので、より小学校の段階での指導、支援の継続、あるいは重点化した取組をお願いしたいというところで指導してまいりたいと思っております。

それから、子どもたちの自由記述をぜひ、私も否定的なといいますが、子どもなりに改善をお願いしたいものがなかったかなと思っておりますが、ぜひそういった声も聞いて、子どもたちにとって満足度の高いものを追求していく必要があるかと思っておりますので、さらなる改善を図っていきたいと考えております。

ほかにございますでしょうか。

徳 永 委 員 屋上屋を重ねるようになるかもしれませんが、今の学習状況調査結果の中の国語で気がかりだったのですが、やっぱり先ほどの坂本委員の発言と重複しますが、誤答例の具体的な例を見たいなと思いました。というのは、まさかの使い方というのは、別に学校の勉強で習うことではなくて、多分日常的に言葉を使うことの中で身につけていくようなことだと思うのですけれども、そういうことの背景にもしかしたら、いわゆる日本語を母語としていない子どもたちや、あるいはその保護者というようなことが背景にあるのかどうか、そんなことを感じたものですから、そういう意味で具体的な例を見たいなと思いました。機会があれば

お願いしたいと思います。

教 育 長 森保指導主事、お願いします。

指 導 主 事 今回の調査に関して、市教委に送られてくるデータに誤答例一覧というものがございまして、改めてそういったものが実施業者にあるかどうかを確認してみたいと思います。

教 育 長 この調査自体の活用という意味でも課題があるわけございまして、東京都や文科省の学力調査と違って福生市独自と申しますか、そういった部分では学校の扱いももう少し慎重にするように、詳細にするように指導していきたいと考えております。

平 野 委 員 この問題のことなのですが、私もこれを見まして、「まさか」というのは、やっぱり最後に打ち消しや否定の言葉が来るというイメージあるのですが、今、徳永委員がおっしゃった普通の会話の中でということと考えたら、「この備えあればまさかのときには安心だ」といった表現の場合は、否定は来なくても通じますね。だから、そういうこともいろいろあるのかなと思います。最後に否定が来ないから間違いということもないのかなと、感じました。

それから次に、算数の問題で考えられる誤答の例ということで、7.5掛ける9分の4の計算の仕方がわからないと書いてありました。今自宅に中学校の教科書全部ありましたので、この小数掛ける分数の計算というのはどのあたりで出てくるかと思って調べたのですが、ほとんどないですね。それで、7.5だと、これは分数に直したら仮分数とか帯分数になってきますから、やっぱり計算するまでに1つも2つも考えなければいけないということで、もしかしたらこれは誰でもできる問題ではなくて、ちょっと程度の高い問題であったのかなと。手元にあった教科書を一応全部検討した結果、1つぐらいあったかと思えます。あとは掛けるゼロですから、計算しなくてもゼロになっているので、この計算自体が余り子どもたちもやっていないものだったのかなと思いました。

それともう一件、アンケートの件で、先ほどもほかの委員の方がおっしゃいましたけれども、私たちは今回も複数校のスプリングスクールの様子を見させていただいて、やはり学校によって随分捉え方が違うなと思いましたので、特に先生方の意見が実行委員会で話し合われていただければいいのかなと思います。

子どもたちのマイナス面のアンケート結果を、やはり9割の子どもたちが大体満足している場合、あとの1割がどういうところで満足できない

のかというのは、やっぱり私もとても大切なところかなと思いました。そのあたりを見直して、子どもたちにとってもいい結果となるスプリングスクールに結びつけていってほしいなという気持ちは持っております。お願いします。

教 育 長 さらに、学校と市教委事務局で精査をして改善をしていければと思っております。

ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。報告第30号は報告のとおり承認することに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

教 育 長 異議なしと認めます。

よって、報告第30号は報告のとおり承認することといたします。

次に、日程第4、報告第31号、平成26年度福生市学校給食会計収支決算書についてを議題といたします。

学校給食課長より内容の説明をお願いいたします。

学校給食課長 では、日程第4、報告第31号、平成26年度福生市学校給食会計収支決算書について御報告いたします。

7ページをお願いいたします。こちらにつきましては、平成27年6月24日に福生市学校給食センター運営審議会委員から選出されております監査委員による監査におきまして承認されました。また、7月15日に開催いたしました福生市学校給食センター運営審議会において、同様に御承認をいただいております。

資料9ページをごらんください。それでは、説明させていただきます。説明に当たり予算額及び調定額の説明は割愛させていただき、収入済額を中心に説明させていただきます。まず児童給食費は、収入済額1億1,222万8,970円で、前年度比591万9,650円の増額でございます。これは平成26年度より学校給食費を改定したことによるものでございます。収入未済額は111万5,720円、前年度比64万5,070円の増でございます。なお、収納率は99.12%で、前年度比0.48%の減でございます。次に、教職員給食費、収入済額1,287万1,440円、収入未済額はございません。次に、過年度分給食費、収入済額66万5,190円、前年度比59万1,220円の減で、収入未済額が58万1,520円、前年度比35万3,520円の減でございます。過年度分収納率は53.36%で、前年度比3.97%の減でございますが、50%はクリアすることができました。次に、補助金でございます。補助金は、牛乳に対する市か

らの補助金でございます。牛乳単価の3%に相当する額で、収入済額は63万6,187円でございます。雑収入は、預金利息、廃油の売り払い、試食会等で、収入済額18万9,626円、前年度比10万8,957円の増で、食材の売り払いが主な理由でございます。繰越金は、前年度からの繰越金で754万5,410円でございます。

以上、収入の部につきまして、収入済額の合計は1億3,413万6,823円、収入未済額169万7,240円でございます。収入未済額の前年度比29万1,550円の増で、現年度分、過年度分を合わせた学校給食費全体の収納率は98.67%ございました。

次に、支出の部でございます。主食費の支出済額1,524万9,548円、前年度比58万516円の減でございます。減額の理由でございますが、主食費では、平成25年度に学校給食会計が逼迫し学校給食費を引き上げざるを得なかったことから、政府備蓄米の活用や単価の高いパンの使用を控えるなど、平成25年度同様に削減を図ったことによるものでございます。副食費の支出済額は7,616万7,141円で、前年度比283万660円の増でございます。主に消費税の引き上げによるものでございます。牛乳費の支出済額は2,555万9,724円で、前年度比138万9,720円の増でございます。こちらは消費税率の引き上げ及び牛乳単価の上昇によるものでございます。次の還付金、予備費については、執行はございませんでした。

以上、支出の部につきまして、支出済額合計が1億1,697万6,413円、前年度比363万9,864円の増でございます。

次に、収支残金でございますが、収入済額合計から支出済額合計を差し引いた1,716万410円でございます。前年度比961万5,000円の増でございます。これは学校給食費の改定による収入増、平成25年度と同様に政府備蓄米の使用など、支出の削減によるものでございます。

報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

教 育 長 内容の説明は終わりました。質疑がありましたら、お願いをいたします。
平 野 委 員 雑収入の試食会の収入なのですけれども、この試食会はどのような形で、何人の方がされたのでしょうか。

学校給食課長 それぞれに把握してございませんが、一小から七小までのPTAの保護者の方、主に1年生の保護者の方より希望が学校から出されまして、それに対応して行っております。ただ、食器の数等が不足していますので、6年生の移動教室のときの日程を利用しまして行っているというところがございます。

平野委員 大体何名分ぐらいの金額なのでしょうか。

学校給食課長 1食260円でございます、人数が出ていませんものですから、1食260円のお金をいただいております。

教育長 単価260円、計算出ましたか。

学校給食課長 先ほどの売り払い収入が入ってしまっていますので、売り払い収入を引いていただいて260で割るという形になってしまいます。

教育長 よろしいでしょうか。

平野委員 はい。

教育長 ほかにございますか。

坂本委員 今後この給食費の支出が大幅に増えるという予想はあるのでしょうか。

学校給食課長 若干、材料費等が上がっております。それから、あとは消費税の2%の増税の関係がございますので、食材費等上がる可能性はあります。

以上でございます。

教育長 よろしいですか。

坂本委員 今のようなものは想定される範囲ですけれども、これだけの繰越金があるということは、しばらくは、給食費は金額を変えなくても大丈夫と考えていいのでしょうか。

学校給食課長 まず、中学校給食が始まった段階で中学校の給食費を設定する必要が出てきますが、確かにこの金額でございますので、今のところ改定をするというところではございませんが、諸事情でもしかしたらということもあります。今のところはこのままでいきたいと考えています。

教育長 よろしいでしょうか。

ほかにございますか。

平野委員 どれくらい値上げをするかと考えたときは、やはり消費税のプラス2%までを見込んで、次の値上げの部分も見込んで値上げ率を考えたのではなかったのでしょうか。違いましたか。

学校給食課長 そういうところもございます。ただ、食材費がそれ以上に高騰すれば、というところもございます。今のところ改定には至らないと考えております。

教育長 この後動向を見つつ、また御相談させていただいて、今のところはそういう予定はないということでございます。

ほかにございますか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、質疑を終わります。

お諮りをいたします。報告第31号は、報告のとおり承認することに御異

議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

教 育 長 異議なしと認めます。

よって、報告第31号は報告のとおり承認することといたします。

次に、日程第5、その他報告事項について説明を願います。

まず、平成27年第2回福生市議会定例会の報告について、教育総務課長、お願いいたします。

教育総務課長 平成27年第2回福生市議会定例会の結果について御報告させていただきます。

資料の13ページ、その他報告資料1をご覧くださいと存じます。第2回議会定例会の会期につきましては、6月9日から6月26日までの18日間で行いました。6月12日の定例会冒頭におきまして、4月1日に就任されました坂本教育委員から就任の御挨拶がございました。

また、6月12日の定例会4日目になりますが、6月15日をもって任期満了となる平野教育委員について再任の任命同意の議案が提出されまして、即決にて再任の同意がなされております。任期は、6月16日から1年間となります。さらに、平野委員には、6月26日の定例会最終日に議場にて御挨拶をいただきました。

議会定例会の案件でございますが、議案の主なものをここに記載させていただきました。このうち平成27年度補正予算(第1号)でございますが、教育委員会に係る補正予算といたしましては、5月15日の教育委員会定例会におきまして意見聴取として御審議をいただきました日本の伝統・文化理解教育推進事業、オリンピック・パラリンピック教育推進校事業など6事業と、ライオンズクラブ、ライオネスクラブからの寄附金を活用し、青少年育成地区委員長会が主催するイベント等で使用するテント購入のための備品購入費を計上いたしまして、全て可決されております。

次に、一般質問でございますが、15名の議員から質問があり、そのうち教育委員会に係る質問は10名の議員からございました。以下、質問要旨、答弁要旨につきましては、議員別に記載をしておりますので、お目通しをいただければと存じます。

以上で平成27年第2回福生市議会定例会の報告とさせていただきます。

教 育 長 説明を終わりました。何かございますか。

よろしいでしょうか。

それでは次に、「平成27年度福生市特別支援学級の紹介」冊子について

を議題といたします。

教育支援課長、説明をお願いします。

教育支援課長 それでは、日程第5、その他報告事項の2、「平成27年度福生市特別支援学級の紹介」につきまして御説明します。

児童・生徒の就学に当たり心配があるとき、あるいは特別支援学級を希望されるときに保護者の方が参考にできるよう、この冊子を作成しています。内容は、本市の特別支援学級について、各学校の固定学級、通級指導学級の教育内容等の説明、教育相談室、教育支援チームの相談内容の御案内、そして就学先決定までの流れ等を記載しています。この冊子を市内小・中学校、市内幼稚園、保育園、保健センター、子ども家庭支援センター、児童館、教育相談室、教育委員会教育支援課に、そして市外におきましては羽村市特別支援学級及びあきる野特別支援学校に置いています。

御報告につきまして以上でございます。

教 育 長 内容説明は終わりました。何かございますでしょうか。

こういった形で就学までの流れについての御案内をするようにしております。

予定しておりますその他報告事項は以上でございますが、皆様から何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、ないようでございますので、以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして平成27年第7回福生市教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。

午前10時41分 閉会